

四十七士木像

18 世紀の中頃に起こった 47 人の浪人（赤穂浪士）の復讐劇は、広く知られている歴史的な出来事である。半ば伝説となっているこの物語は、本や劇、映画、アニメーションなどで、数え切れないほど繰り返し語り継がれてきた。法住寺にある 47 体のユニークな像は、赤穂浪士の功績を讃えるものである。赤穂浪士は忠誠心や自己犠牲、忍耐、名誉を体現する存在であると考えられている。この出来事にまつわる史実の多くは、虚構とないまぜになっているが、法住寺とのつながりは現実にあったことである。大石内蔵助良雄が京都の東の山科に隠れていた半年間、彼らは法住寺を何度か訪問している。そこで彼らは、支持者である侍たちと密かに連絡を取り、皇室の中の協力者から最新の情報を集めていたのである。